エンジョイ！軟式野球フェスティバル2025

長野県大会競技規則及び方法

１　大会特別競技規

（１）本大会の試合は、原則として６回戦及び90分の試合制限時間を採用して行う。

　　（90分試合制限とは、90分を過ぎたら新しいイニングには入らないことを示す。）

（２）（１）を原則とするが、６回終了時又は90分を経過して同点の場合は、２回までを限度

に、次の『タイブレーク方式』を行う。

　　《タイブレーク方式（特別延長戦）》

　　　継続打順とし、前回の最終打者を１塁走者とし、２塁の走者は順次前の打者とする。

すなわち、無死１・２塁の状態にして、投手の投球制限を遵守のうえ、１イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。

　　　勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。

なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる団員の交代は許される。

（３）（2）を適用しても決着がつかないときは、抽選によって勝敗を決定する。

（４）抽選方法は、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。

（５）得点差のコールドゲームは採用しない。

（６）投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。

　　　ペナルティは、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。

（７）参加団員に対し、全員が各試合に出場できる機会を与えることが望ましい。

（８）抗議権（アピールに限る。）は監督だけとする。

（９）本規則に定められていない事項が生じた場合は、審判員協議の上、大会審判長の権限に

より処理する。

（10）投手の投球制限

　　①肘・肩の障害防止を考慮し、１人の投手が１日に投球できるのは70球（４年生以下は60球）以内とする。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

　　②その試合中に70球（４年生以下は60球）以内なら投手が一旦他のポジションに移動し再度投手に戻ることはできる。

　　③走者に対しての牽制球、投球練習（試合中以外も含む。）はカウントしない。

　　④試合中、ベンチ前での投球練習は禁止する。

２　危険防止のため次の用具を使用する。

（１）打者、次打者、走者及び走塁指導者は両側にイヤーフラップのついた打者用ヘルメットを着用する。

（２）捕手はマスクが分離した捕手用ヘルメットを着用すること。また、プロテクター、レガース、ファールカップを必ず着用すること。

（３）上記の各用具及びバットは、全日本軟式野球連盟公認（JSBBマーク入り）の物を使用

すること。

（４）素振り用の鉄棒（鉄パイプを含む）、バットリングは使用してはならない。

（５）金属スパイクの使用を禁止する。

（６）ボールボーイもヘルメットを着用する。

３　競技運営に関し、次のことを規定する。

1. 競技者の背番号は、算用数字で０番から99番までとし、代表団員（主将）は10番に統

一する。なお、必ず団員章を着用する。

（２）試合中のダッグアウト（ベンチ）に入れる人員は次のとおりとする。

　参加申込書に記載されたチーム代表者、監督、コーチ２名、団員20名、スコアラー（団員

以外とし、シートノックやマネージャー行為など記録に関する以外の行為は認めない。）、

熱中症対策スタッフ２名の計27名とする。

　なお、スコアラー、熱中症対策スタッフがベンチ入りする際は大会本部へ申請を行うこと。

（３）監督の背番号は30番に統一する。なお、コーチがベンチ入りする場合、背番号は28番と

29番とし、チーム代表者、コーチは選手と同一ユニフォームを着用し指導者章を着用するこ

と。

（４）ダッグアウトの中でメガホン１個の使用を認めるが、携帯用マイク及び携帯電話の使用は

禁止とする。

（５）ダッグアウトは、組み合わせ番号の若い方を１塁側とする。

（６）試合前のフィールディング練習は５分間とする。（ノッカーも必ずユニフォームを着用す

ること。）なお、大会運営の関係で時間を短縮したり、フィールディング練習なしで試合す

ることもある。

（７）球場内でのフリーバッティングは認めない。トスバッティングは相手チームのフィールデ

ィング練習中に限り、外野のファウルグラウンドで行うことができる。

（８）第１試合のチームは、試合開始予定時刻30分前、第２試合以降は、前の試合開始１時間

後、又は、５回終了時に本部へメンバー表５部（必ずふりがなを付けること。）を提出して

登録メンバーの照合を受けること。なお、その際、代表団員（主将）によって攻守の決定を

行う。

（９）試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始時刻を早める場合

がある。

（10）試合開始時刻になっても会場に来ていないチームは、原則として棄権とみなす。

（11）試合中、監督はグラウンドに入って指示を与えることができる。

（12）ボークは１回目から判定する。

（13）攻守交代は駆け足で行うこと。

（14）ファウルボールの処理については、１塁側は１塁側チームが、３塁側は３塁側のチーム

がそれぞれ拾い合うこと。捕手の後方は、攻撃側のチームが拾うものとする。

　　　なお、拾ったボールはボールボーイに渡し、最後に球審に戻るようにする。

（15）チーム並びに応援団は、連盟の競技者規定に抵触しないように注意を徹底すること。特に

投手が投球モーションに入ったら、応援を止めなければならない。

また、好ましくない応援や野次（鳴り物は禁止）に対しては、審判員がそのチームに対し

注意を行う。